

アジア圏におけるアンプラグドの取り組みと工夫

和田勉[†]

「アンプラグド本」は、日本・韓国・中国において翻訳され出版あるいは出版準備中である。日本と韓国の翻訳者チームは早くから交流があり、2007年秋からは中国の翻訳者とも交流を持っている。私は4つの言語の版を読み比べる作業を行ってきた。アンプラグド本英語版の「学習」には英語を基礎とした題材がいくつかある。それらは日本語版で部分的に翻案されているほかは、3カ国語版とも英語の題材のままになっている。ここではそれら個々の点についての比較結果を紹介し、単なる翻訳ではなく言語・文化を考慮して各国・言語文化圏版への翻案をすることの必要・重要性を述べる。また、アジア圏の各国でアンプラグドに関わる人たちが交流し、協力体制を築いていくことの重要性を述べる。

"Unplugged" Activities and Arrangements in Asia

BEN TSUTOM WADA[†]

The "Unplugged book" was translated and published/pre-published in Japan, Korea, and China. Japan and Korea's translating teams have collaborated each other, and since 2007 winter they start collaboration also with the China's translator. I have read four translated books and compare one another. In the English version of Unplugged book, there are some subjects of "activities" which are based on English language. Except some of them which are adapted in the Japanese translation, they are left containing those subjects of English language. I introduce the result of our comparison, and discuss the necessity and importance of adaption to each country or to each area of any specific linguistic culture, by considering its language and culture. And I discuss the importance that those people who are concerned Unplugged in Asian countries will interact one another, so that we will construct the framework of our cooperation.

아시아에 있어서의 언플러그드 활동과 궁리

와다 쓰뚝[†]

"언플러그드 책"은 일본, 한국, 중국에서 번역되고 출판 또는 출판준비중이다. 일본과 한국 번역팀은 일찍이 교류가 있고, 2007년 가을부터는 중국 번역자와도 교류를 가진다. 저는 4개 언어판을 읽어서 비교하는 작업을 했다. 언플러그드 책 영어판 "학습활동"에서는 영어를 기초로 하는 제재가 여러 있다. 그들은 일본어판에서 부분적으로 번안된 이외에는 3언어판이 또 영어 제재가 사용된 대로 있다. 이 문장에서는 그 개개 부분에 관해서 비교한 결과를 소개하고, 단순한 번역이 아니고, 언어·문화를 고려해서 각국이나 언어 문화권 책으로의 번안하는 것의 필요·중요성을 서술한다. 또한, 아시아 각국에서 언플러그드에 관계하는 사람들이 교류해서 협력체제를 이루는 것의 중요성을 서술한다.

"Unplugged"在亚洲-有什么活动和努力?

和田勉[†]

"Unplugged"这本书在日本和韩国已经出版了。在中国翻译过程已经完成，在准备出版。日本和韩国的翻译工作人员早就有来往，他们自2007年秋天起和中国翻译人员也建立了交往。我在对这4种版本进行对照。Unplugged的英语版的“单元”里，有几个以英语作为基础的题材。这些部分，除了在日语版本里有部分改编外，3个语言版本都保持着英语题材的原状。这里关于这些各个部分介绍一下。我陈述，不应该简单地翻译，反而，根据对于语言、文化的考虑，应该改变到合适每个国家、语言文化的版本。我还陈述，在亚洲各国的所有关系 Unplugged 的人员应该交流，建立合作体制。

1. はじめに

本としての「アンプラグド」すなわち原題“Computer Science Unplugged”（以下「アンプラグド本」、「英語版」、および「原著者」と呼ぶ）は、もともと英語で書かれたものだが¹⁾その後各国語に翻訳されている。アジア

内においては、韓国において2006年に²⁾、日本において2007年に³⁾、それぞれ翻訳書が出版された。また中国（大陸）においては、翻訳作業は完了しており出版準備中⁴⁾である。

[†]長野大学 企業情報学部
Faculty of Business and Informatics, Nagano University
ながの대학교 기업정보대학 長野大学企业信息系

日本語版のチームと韓国語版のチームは、以前からのお互いの人間関係もあり、早くから連携をとっていたと聞いている。私(和田)は、日本語版の翻訳作業にはかかわっておらず、関わり始めたのはそれができあがってからである。なお韓国語版は、その前の2006年に韓国・高麗大学に滞在した際に出来上がった本をいただいていた。

その時点で、中国語版の翻訳者とは和田・日本語版のチーム・韓国語版のチームを含めて交流がなかった。原著者 Tim Bell^{a)}がその中国語版翻訳者のところに滞在することを聞いた和田が、半ば強引に、中国に連絡を取り、日本語版の監訳者の兼宗進をさそって、中国、具体的には湖北省武漢市の华中科技大学の謝夏(XIE Xia)を訪問したのは、2007年10月のことだった。

その訪問の際の会議で、同先生はじめその部局の先生方・学生たちに、日本と韓国のアンブラグドの状況を紹介した。その時点ですでに中国語版の原稿は完成していたものの、同じ部局の先生方や学生にもアンブラグドのことはあまり知られていなかったようにみうけられた。Tim Bellは中国人学生にアルゴリズムの授業を行う教員として招かれており、我々が訪問したときはすでに彼が到着してから約2週間経っていたが、アンブラグドに関する目だった活動は行われていなかった。しかし兼宗と和田が滞在したこともひとつのきっかけとなって研究会が開かれ、その席で兼宗と和田が日本と韓国のアンブラグドの状況を紹介し、またTim Bellからアンブラグド自体が先方大学の先生方や学生にも紹介された。またこれをきっかけに、その日のうちから、アンブラグドを中国の実情、特に言語が中国語だということにあわせた取り組みが始まった。

2. 「アンブラグド本」各国語版とそれぞれの工夫

「アンブラグド本」の日本語版・韓国語版・中国語版は、それぞれの国の翻訳チームが、それぞれに英語版から翻訳したものである。上記の中国訪問の際、和田は中国語版の出版準備中の原稿をいただき、これにより和田の手元には英語版・日本語版・韓国語版・中国語版の4つがそろった。そこで一つの試みとして、2008年春から、4つの版を読み比べる作業を行ってきた^{b)}。これは全ページの8割がたが終わったところだが、

a) 本予稿中ではすべて敬称を略させていただきます。

b) 実際には、長野大学で和田が指導する「ゼミ」の活動として行なった。まずは日本語がある程度できる中国人留学生2人と和田が、日本語版と中国語版を比べて読み比べ、疑問点がある箇所は和田が英語版と韓国語版の当該箇所も読んでみる、という方式で進めた。和田も中国語はある程度で

いままでの読み比べから感じたことを以下に記してみる。

韓国語版と中国語版は、英語版を文字通り「翻訳」したものである。訳書なのだからそれで当然、ともいえるが、あとで記すように、アンブラグド本には各所に、内容そのものが英語あるいは英語文化に依存した、単純な翻訳は困難な部分がある。韓国語版と中国語版ではこれらの多くは、英語のままあるいは、英語版の対応箇所を見ない限り理解困難な「直訳」になっている。

それに比べて日本語版は、これらの部分について多くのオリジナルの執筆を加えた、あるいはオリジナルの執筆で置き換えたもので、単なる「翻訳」の域を超えた「翻案」になっている^{c)}。また巻末に「追補」として、完全に日本語版での書き下ろし部分を付け加えている。もちろんそれは必要ゆえに行われたことであり、韓国語版や中国語版でも同じ部分に翻案が必要なが多いが、それらでは上記のように行われていない。以下本節ではそれらについて記す。

この本は12個の「学習」からなっているが、その中には、題材そのものが英語を基礎にしているものはいくつかある。その多くは、これから各国語対応の翻案が必要なものである。

●学習1の中の「秘密のメッセージを送ろう」

アルファベットを5ビットの文字コードで表し、"help im trapped (助けて閉じ込められた)"という英文をコード化して、クリスマスツリーの明かりのオンオフで伝える題材である。現在は、日本語版、韓国語版、中国語版(以下「3言語版」と記す)のいずれも、このままの英文を題材にしている。英語圏の子供にはやさしい手ごころな英語だが、日本語・韓国語・中国語で育つ子供にとっては難解な題材である。

なお、後述のACM-SIGCSEでの発表(ポスタ発表⁹⁾)においては、ひらがな、ハングル、ピンインのコード化の案がポスターセッションにおいて発表された。また、日本での個々の実践においては、独自に、ひらがなの一部だけをコード化する方法を用い、例文として「たすけて すてきな おねえさん」という文を使う、などの例も行われている。

●学習3「それ、さっきも言った!」

英文の詩(The Rain)や、英単語(banana)を題材に使っ

きるが、中国語ネイティブ話者がいたことは大いにありがたく、彼らの目でチェックして中国語版の誤りと思われる箇所は謝夏に知らせてフィードバックした。英語版は和田が主導で読み、必要に応じて留学生に解説した。韓国語版は、他に韓国語を解する人がいないため和田だけが読んだが、それでもかなりの「要検討点」を発見した。

c) あるいは、後述の学習4のジョークのように、翻訳が困難なためむしろその部分を削っている箇所もある。

て文字列の反復によるデータ圧縮を解説している。

現在は3言語版いずれも、英語のままの題材を用いており、日本語版は単語単位での、中国語版は詩全体の訳を添えている。一方、文字の反復の例として出されている Banana も、現在は3言語版いずれもこのまま載せている。ただし日本では、本の出版後、「おいしいだけ」(兼宗作)「おいしいだけをおそろおそろおくる」(兼宗+和田作)という題材の工夫も行われている。

●学習4の中のジョーク"Pieces of nine...Parrot Error"

parrot (オウム) とバリエティを掛けているジョークが使われている。出典はスティーブソンの「宝島」であり、物語の中でオウムが繰り返し叫ぶ"Pieces of eight"の言い間違いとして、英語圏の子どもたちには受け入れやすいと思われる。しかし「宝島」は日本を含むアジア圏ではほとんどなじみがないことを考慮して、日本語版ではこの部分は訳されていない。しかし韓国語版と中国語版では「オウムのエラー」あるいは「オウムの間違い」と直訳されており、それだけでは意味不明になってしまっている。

●学習5の「要約」中の文"This sentence has the vowels missing" (This sentence has the vowels missing)から母音を除いても解説可能、という例だが、これも英語圏で育つ子供には解説可能であるにすぎない。3言語版ともこの英語の題材のままとなっている。ただし日本語版では、もとの母音を含む文を載せて分かりやすくしている。

これまで挙げたものは、これから「翻案」の工夫が必要である箇所だが、日本語版では、すでに翻案されている部分も、前述のようにいくつかある。例えば

●学習5のゲーム「20の扉」の「発展」

英語版は「4-6単語から成る英文」を yes/no の質問であてるゲームとなっているが、日本語版では「17文字までの文をあてるゲーム」となっている。韓国語版と中国語版では、英文そのままの翻訳、すなわち「4-6単語からなる文をあててみよう」となっている。当然、説明文章そのものは韓国語あるいは中国語のため、読者が、(英語ではなく)中国語や韓国語の文を用いる題材だと誤解するのは、と心配になる。

3. おわりに

2008年3月に米国オレゴン州ポートランドで行われた、ACM-SIGCSEのシンポジウムにおいて、アンブラグドの発表がいくつか行なわれた。Tim Bell 他、Lynn Lambert 等米国内のアンブラグド関係者、およびス

ウェーデン語版への翻訳者 Bengt Aspvall 等、多くの関係者が集まり、和田も参加した。夜に設けられたアンブラグドのワークショップ⁹⁾において和田は、Tim Bell から "His role is very unique." と紹介してもらい、3カ国語版の本を持ち込んで、日中韓で翻訳と研究・実践が行われていること、しかしアンブラグド本の内容そのままでは日中韓では必ずしも適用できないことを紹介した。また、ポスター発表¹⁰⁾は、まさにアンブラグドをアジア (およびスウェーデン) の言語と文化に適應させることに関する発表だった。

しかし場所が米国、すなわち言語は英語があたりまえの場所だったため、特に5)には残念ながらほとんど来場者がなく、ブースに控えていた Tim Bell, Bengt Aspvall, および私は、ほとんど手持ち無沙汰であった。こちら英語圏の人に期待していたわけではあまりなく、中国語圏や韓国語圏、さらに日本語圏からも多くの参加者が来て交流のきっかけになることを期待していたのだが、それは期待はずれに終わった。そのため、やはりこういうことはアジアで行わなければだめ、との思いに至り、「ぜひもう一度この発表を、アジアでやろう」と Tim Bell にも話した。今回の SSS が、部分的にでもそれに相当するものになっていることを願う。

今回の SSS は第10回という節目であり、縁あって韓国で開催することとなった。この記念すべきシンポジウムで、Tim Bell と日韓の先生方に講演していただけることはたいへん幸いに思う。この SSS が、アジア内を含めた世界のアンブラグド⁹⁾の発展のみならず今後の情報教育全体の発展に資することを、強く期待する。

参考文献

- 1) T. Bell, I. H. Witten, M. Fellows: Computer Science Unplugged, An enrichment and extension programme for primary-aged children, <http://csunplugged.com/> (2002).
- 2) 이원규, 최숙경 등 번역: 놀이로 배우는 컴퓨터 과학, 컴퓨터 교육 수업 지침서, 흥릉과학출판사 (2006).
- 3) 兼宗[監訳], 正田良, 鎌田敏之, 紅林秀治[翻訳], 久野増[追補]: コンピュータを使わない情報教育 アンブラグドコンピュータサイエンス, イーテキスト研究所(2007).
- 4) 谢夏 翻译: Computer Science Unplugged, 中学生学科丰富与延伸, 准备出版 (出版準備中)。

d) もちろんここで言うアンブラグドは、現在アンブラグド本に書かれていることに限るものでもないし、アンブラグドと題して行っているものに限るものでもない。「アンブラグド的」なものをすべて含む、広い意味である。

5) Tim Bell, Ben T Wada, Susumu Kanemune, Xia Xie, WonGyu Lee, Choi SookKyoung, Bengt Aspval, Anna Wingkvist: Making computer science activities accessible for the languages and cultures of Japan, Korea, China and Sweden, SIGCSE 2008 March 12-15, 2008, Portland, Oregon USA.

6) Lynn Lambert, Tim Bell, Tom Cortina, Peter Henderson, Michael Fellows: Computer Science Unplugged, Workshop #19, SIGCSE 2008, March 12-15, 2008, Portland, Oregon, USA.